

はじめに

持続的な大学運営とCSR (“College” Social Responsibility)

総合学務センター長 内山 秀樹

本学がはじめて地域や自治体等との連携協定を結んだのは、2010年の地元森田地区との連携協定でした。当時、森田地区は2007年にまちづくり将来ビジョンを策定し、具体的な取り組みを進める段階に入っていました。その中で、森田地区のリーダーの方から「まちづくりを確実に進めるために、仁短との継続的な関係を構築したい。そのためにはどうしたら良いか。」とのご相談をいただいたことから始まりました。本学としても地域に根ざした高等教育機関の社会貢献の一環として、また、教職員の研究・活動フィールドとして、学生が地域社会に胸を借りて学ぶフィールドとして期待したいということで協定締結に至りました。以後、福井市、永平寺町との包括的連携協定を締結していきました。これらの取り組みはまさに大学のCSRそのものです。ここでは“Corporate”を“College”に置き換えて考察したいと思います。

協定締結以前にも様々な形で連携してきた実績は多々ありますが、少子化、4大志向等、厳しい環境下にある本学をはじめとする短大の生き残りのためにどうCSRに取り組むべきか考える時期にきていると思います。このテーマについて示唆に富んだわかりやすいコメントがありますので、引用させていただき、皆さんと共有することで今後の本学の教育・研究活動の活性化と地域からの信頼性の向上につなげたいと思います。

(以下引用)

―地域社会と連携してCSRの成果を得るには何が必要なのでしょうか？それは、学生の活動や大学が立地する地域の取り組みをしっかりと把握すること。そして大学のステークホルダーである「学生」や「地域の住民」が大学を支持してくれるような仕掛けとシステムの構築をすることです。ここを目指して、

大学は努力しなくてははいけません。地域に誇れる大学。地域全体で支えていこうと思われる大学。その先に永続的な大学経営が保障されるというのが、大学にとってのCSRなのです。

地域の取り組みを把握する、また地域からの支持を得るような取り組みをするのに、まず必要なことはなんでしょうか。それは大学が取り組んでいることが、きちんとステークホルダーに伝わる仕組みを作ったり、大学を評価してもらう啓蒙・啓発を行なう取り組みなど、さまざまな仕組みを整えていくことです。

さらに、大学の中にある「資源」と地域が持つ「学外でのニーズ」を結びつけて、それをコーディネートする仕掛けをつくることは大学の役割です。大学と地域の相互で作るCSRのシステムは、大学経営が長期的に安定したものになると同時に、地域が活気づき、豊かな地域社会をつくることなのです。―

このように、持続可能な大学運営のためには、

- ・ステークホルダーに支持され
 - ・誇っていただける大学であり続ける
- ことが肝要であり、そのために必要なことは、
- ・大学の取り組みをきちんと伝える
 - ・評価していただけるような情報発信を行う
 - ・大学の資源と地域ニーズをコーディネートする
- 仕組みを整えることと結んでいます。

厳しい環境下、私たちは福井で唯一の女子高等教育機関として将来にわたって支持され、地域社会に貢献するために、これらの点について常に自問自答しながら教育・研究活動に取り組んでいく所存ですので、皆様のご理解とご支援をお願いします。

*引用：東京修復保存センター http://www.trcc.jp/2nd_univ_CSR.html